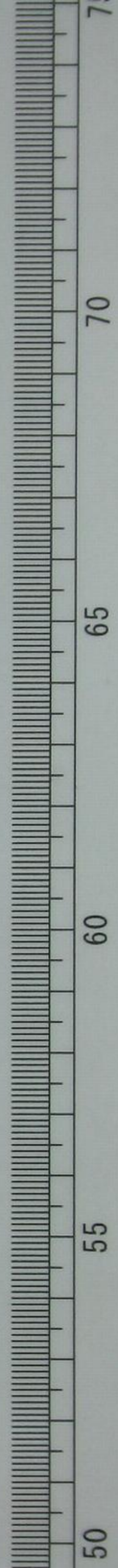


御拾  
珍  
機  
刊  
蒙  
鑑  
草

113  
906



113  
906

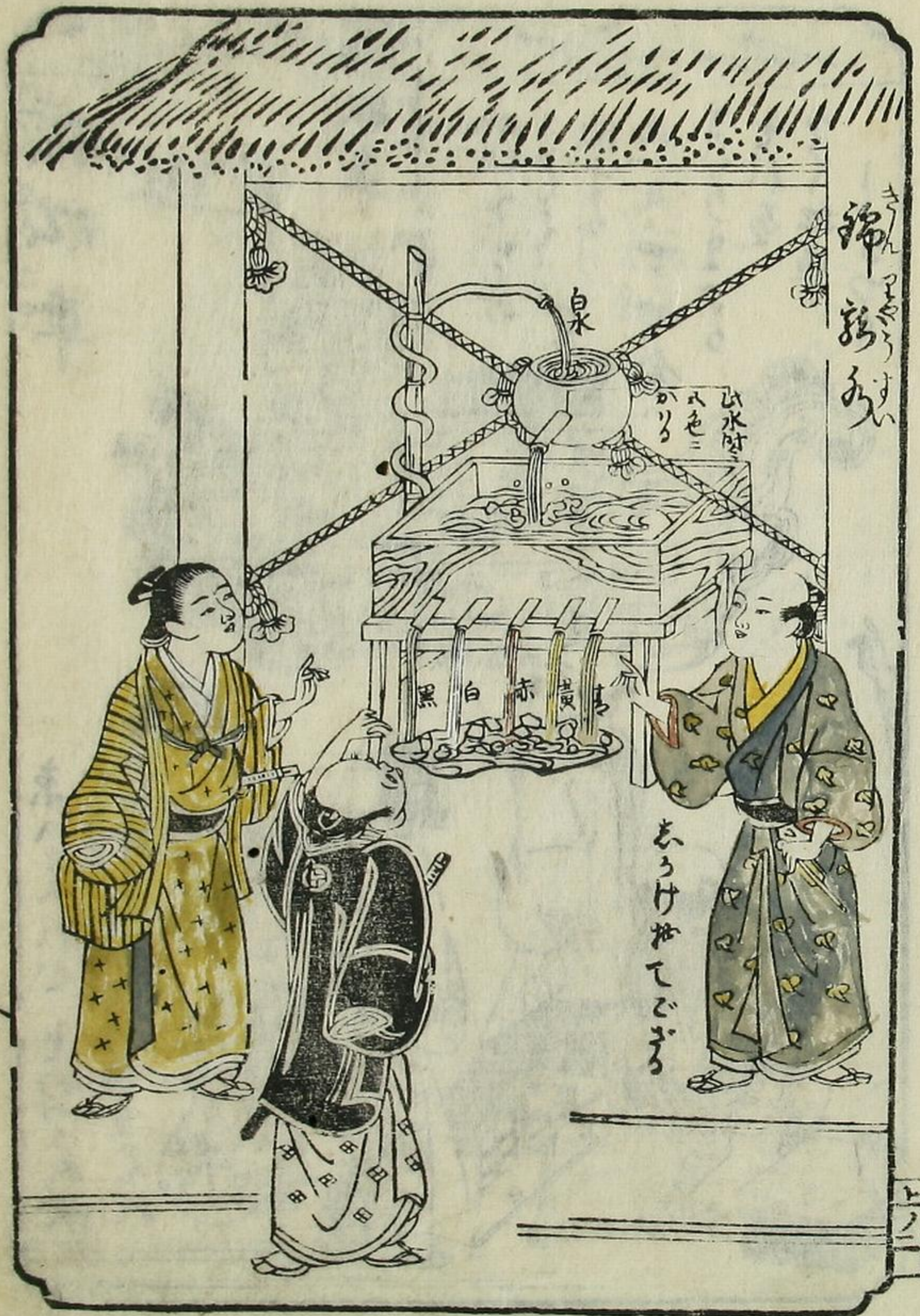


113  
609

穢刺蒙鏡草上之巻序

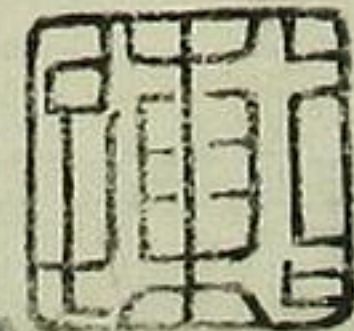
嘗沈下忍けし油まじり。東山くろ書こえて  
乃書。門まをよ下れと。所つくとしと  
女中ハ越み袖とくさ子。香を油のふけ  
ひ風よいらどり。庵んはん。る四糸乃  
登らる油く。たな。書鏡うられ人本戸  
ぎハに布状なり。糸菊の山高く酒  
橋の満ふり。く。女部ハ形。こ乃

正十五年二月  
仙次郎氏  
Eノ一



大匠とさやうあ茶やの中居ま  
 里み。みられ自惚此のうせんの起。うんま  
 う錦して。初程言れあり福。并。ま  
 なが色乃茶とうけ込方これうり  
 菱花うぎくにて銚五錢をばこ切る  
 右今も躑乃満ど心と照す鏡茶根  
 う繁うう牛房扱よーて。其術と見  
 よううこれうく

環中仙序





あのさしやうのま  
さを兄やき

是をこのろ

二十百余ごころります

あのさしやうのま

七更び

まます

あのさしやうのま  
一町の余  
あろ

うごごな  
りのがでけ

上二



陰船車

船車

山坂をかくの

いしくま

返す

凡一日二四三余

まひりま

それを

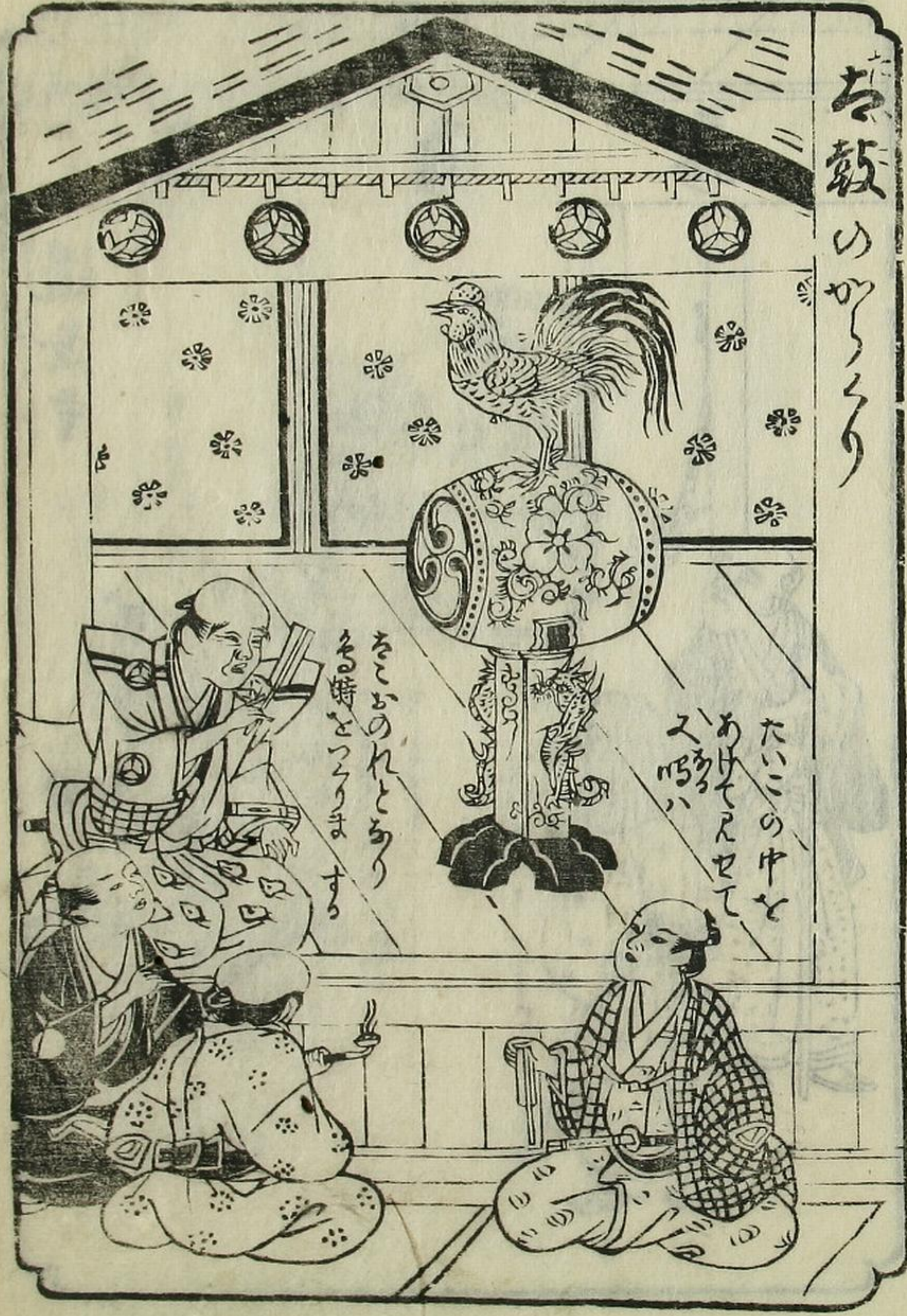
まぐ船車

とちづく

糸へ束れこそわづらみ  
でうぎなるゆとんれ

上二





お敷のやうり

さこのれとあつ  
名舞とつりま  
す

たいこの中を  
あけてえせて  
又鳴か

上五



いろは人形のやうり

つそれたよかわをむぬりち

そのま  
よふん  
とひま  
ちね  
しぎ

いろはに次ぎ  
は人形が文字  
をひま  
す



いぢぢのぢぢ

おぢぢとよと  
 ぢぢます  
 まぢとよと  
 ぢぢます

イ



壽 壽 壽

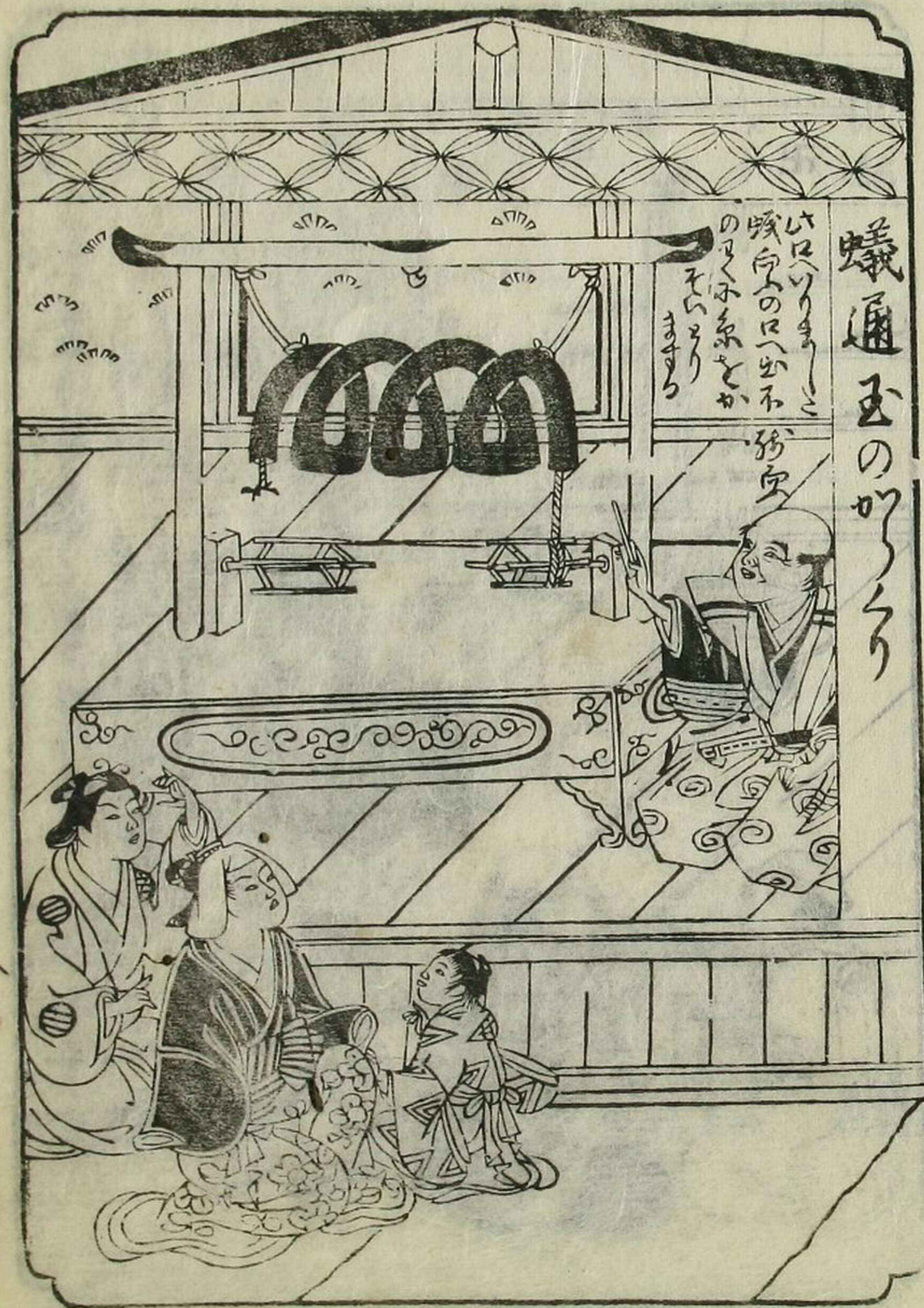
道  
 如  
 寺

通  
 路  
 の  
 教  
 と  
 鬼  
 の  
 ぢ  
 ぢ  
 ぢ  
 ぢ

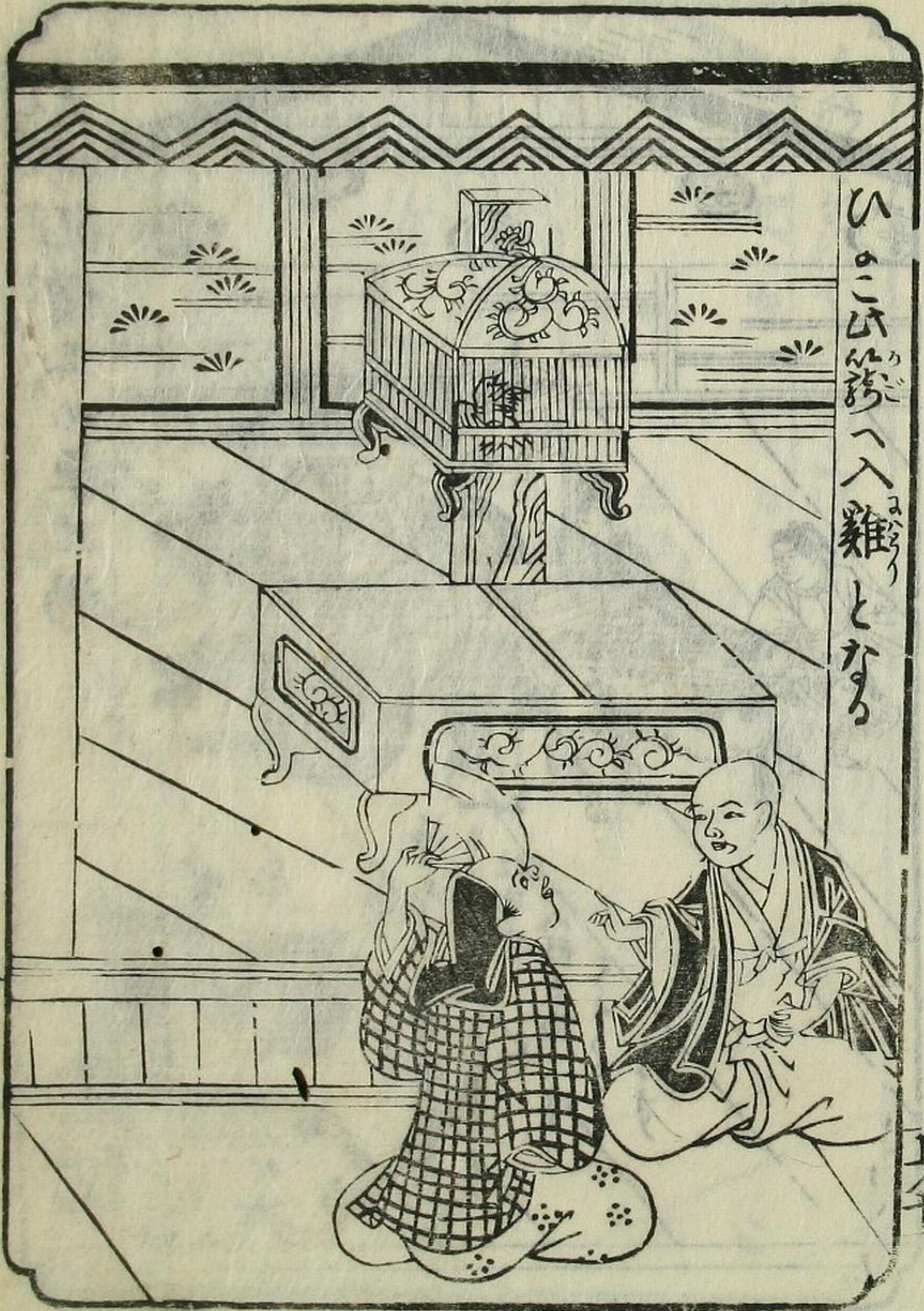
九  
 ツ  
 コ  
 ー  
 テ  
 マ  
 ヲ











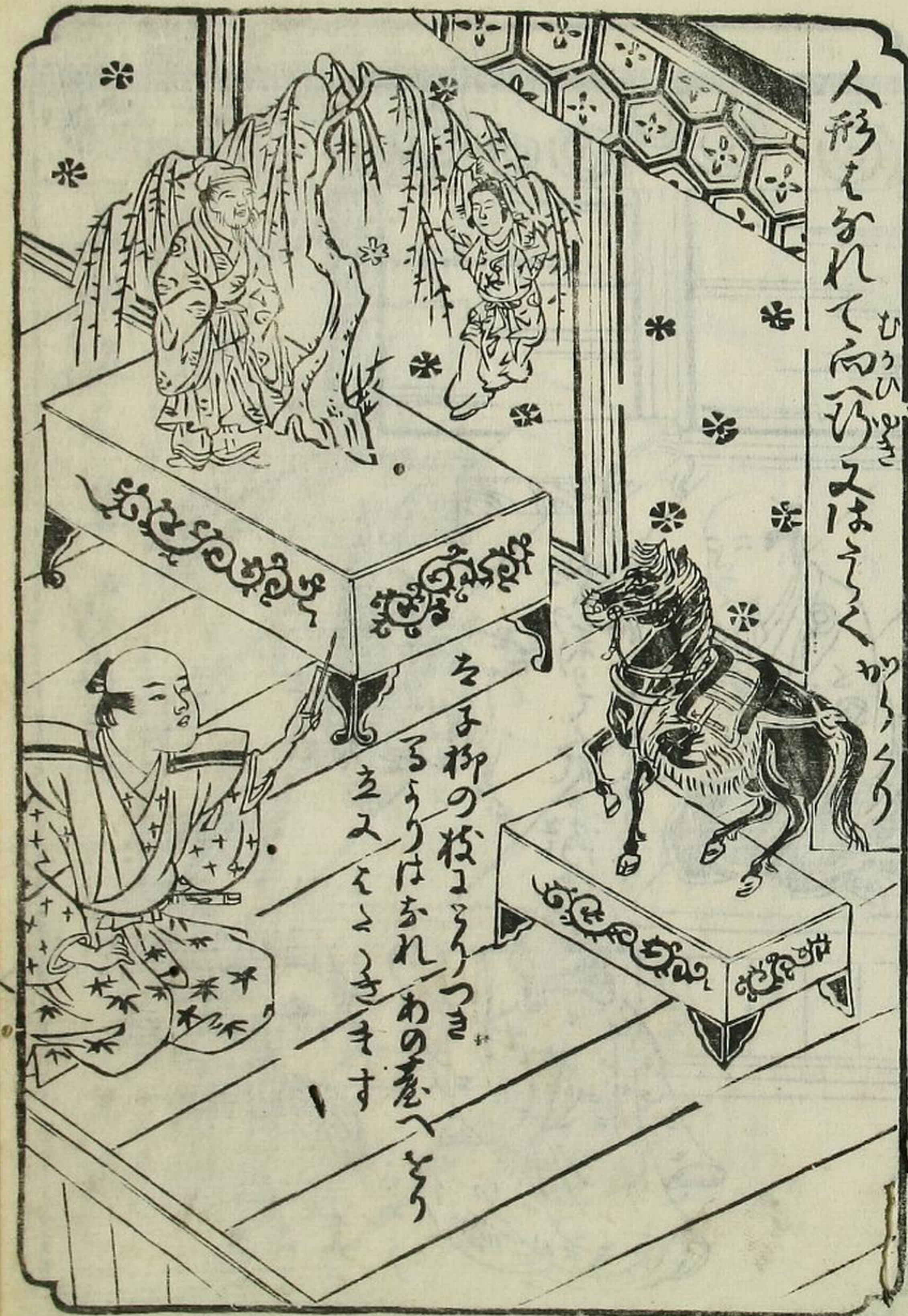
いこひはつへ入難となる

上ノ下



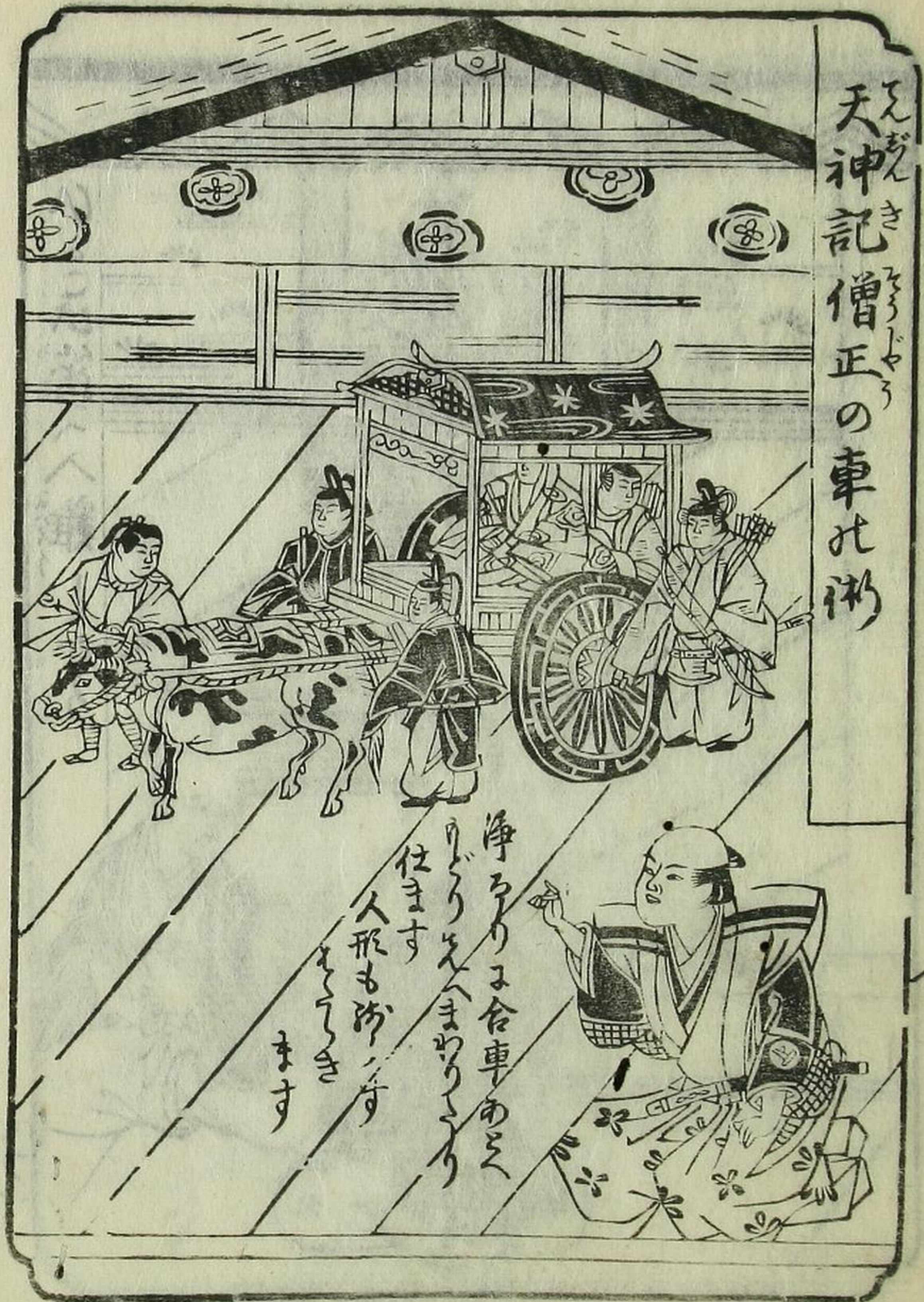
おひひことおひよて難となる

あのおひよ  
 7のひよ入  
 ひよこ  
 ます



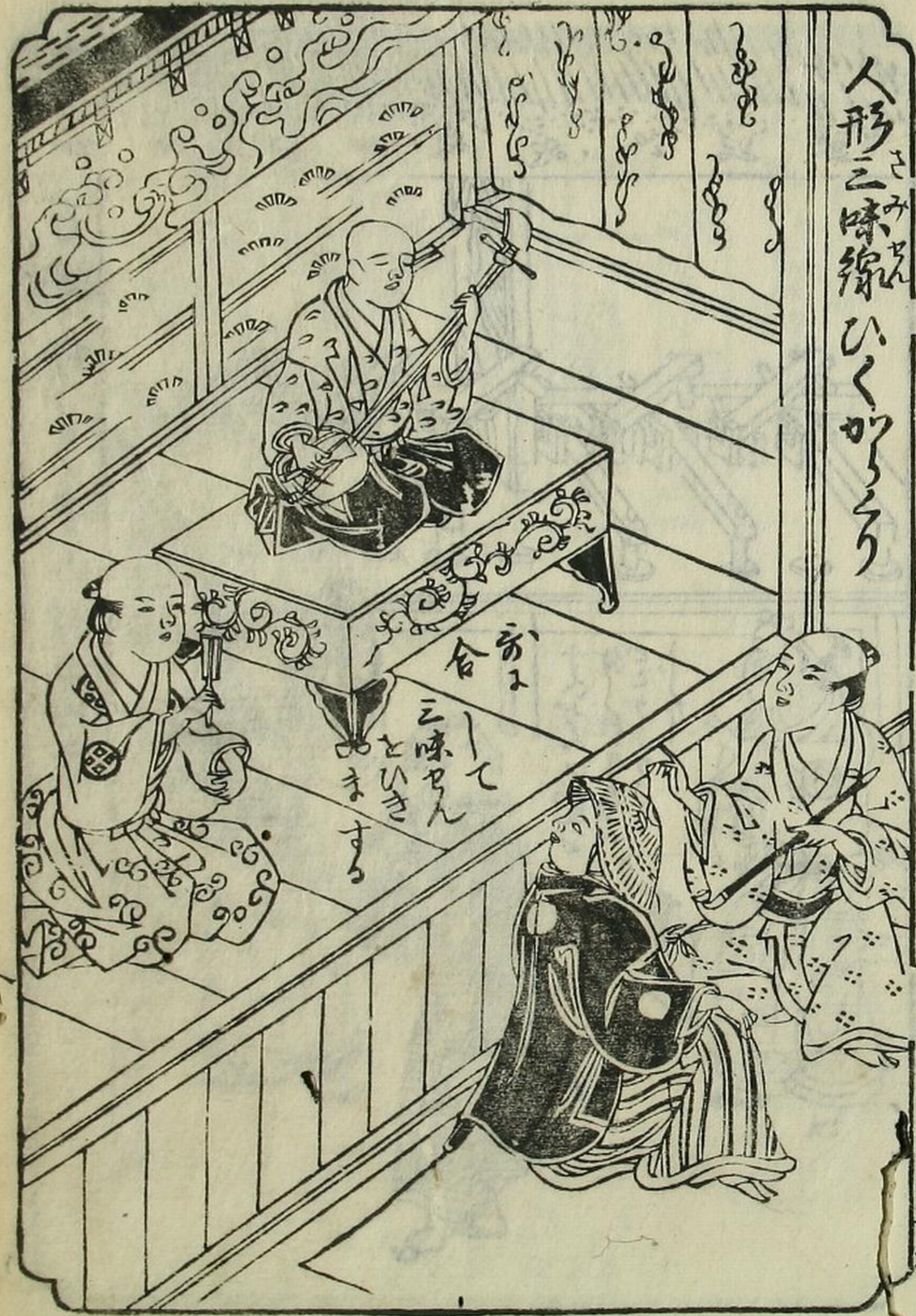
人形も分れて向はひ又はさく

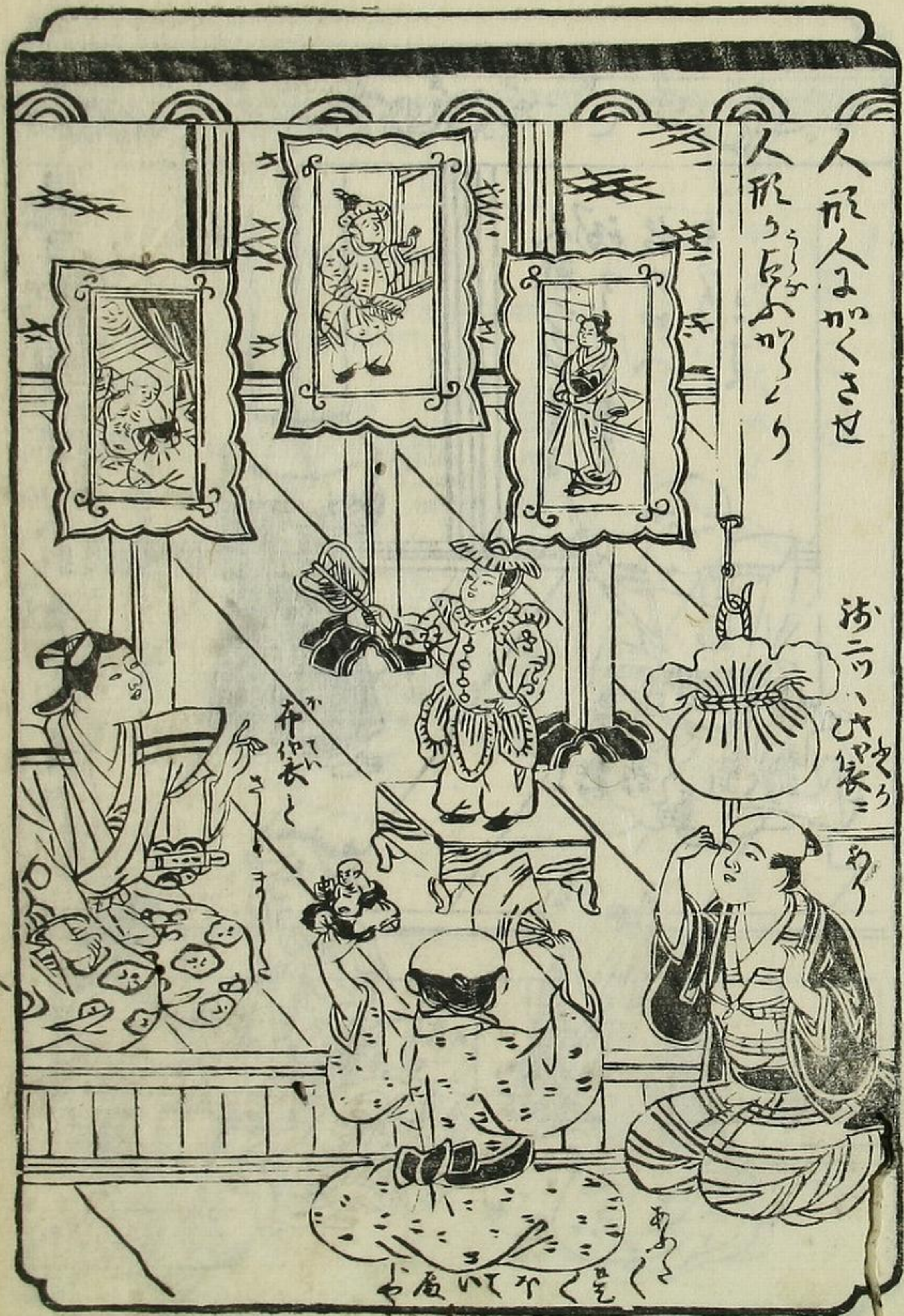
さし柳の枝よきつみ  
 りうりはかれわの老入る  
 立又さくきます



天神記僧正の車此術

淨ろり合車あま  
 りうりえまわりさうり  
 住ます  
 人形も分るす  
 さくき  
 ます

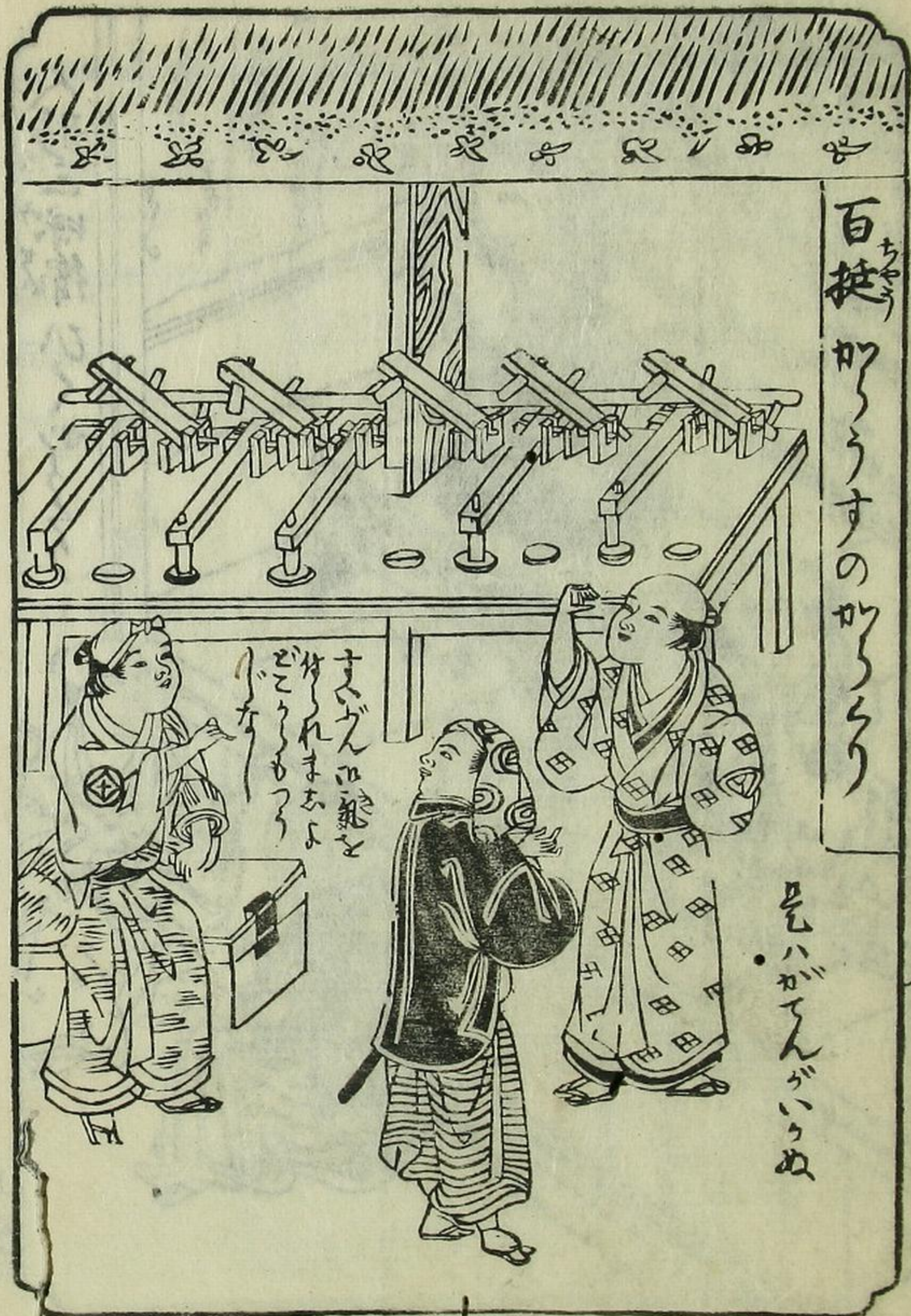




人形人まわくさせ  
人形うしろあかしり

海二ツ、ひびき  
あかしり

上十三



百挺  
かしりすのかしり

まぐん、ひびき  
あかしり  
あかしり

是ハかてんがいうぬ





け人形のカ八十人カどさる  
 志うけ相でござります  
 そつやく人形から  
 海十のハ

上十五



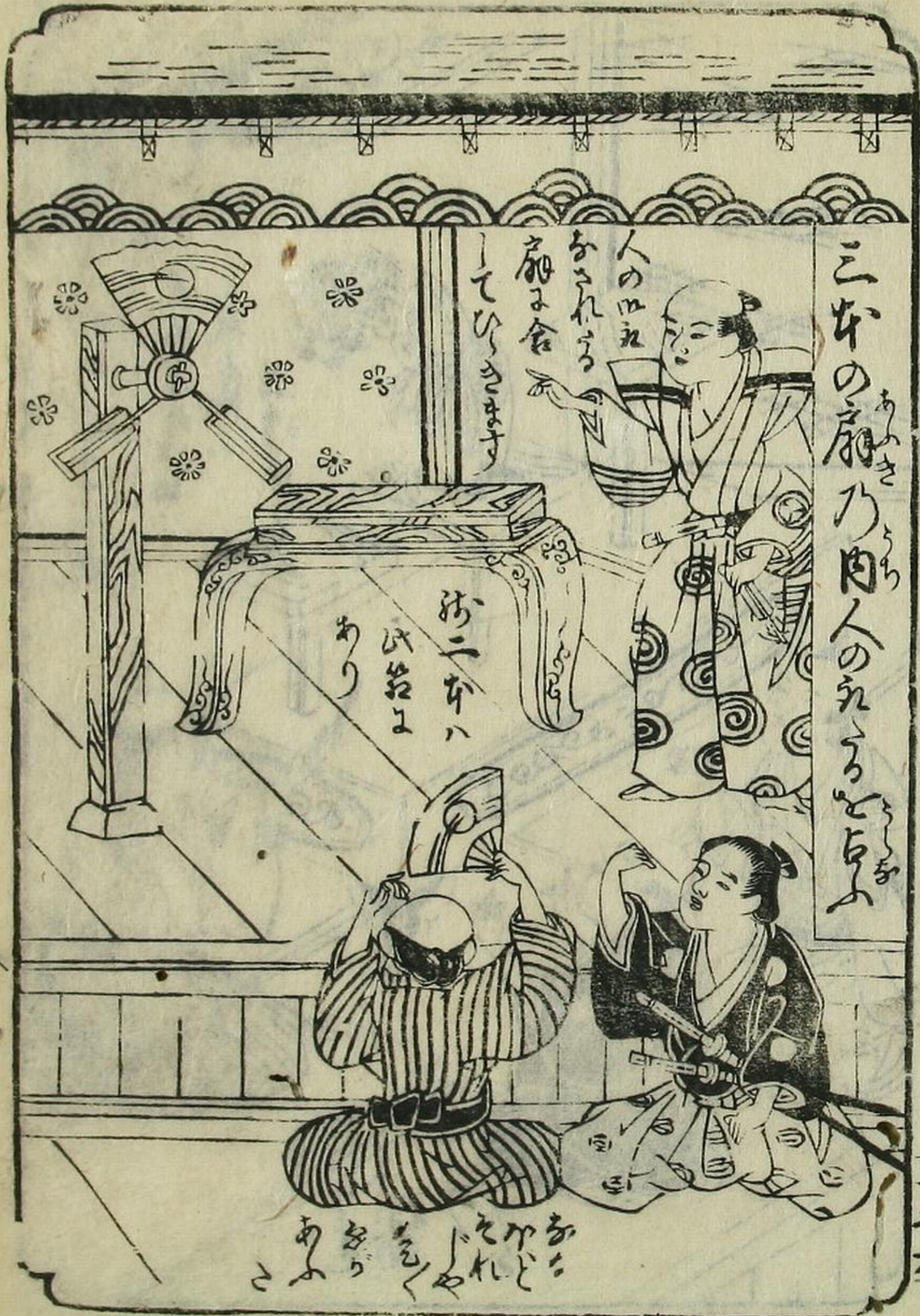
能  
ひきり人形

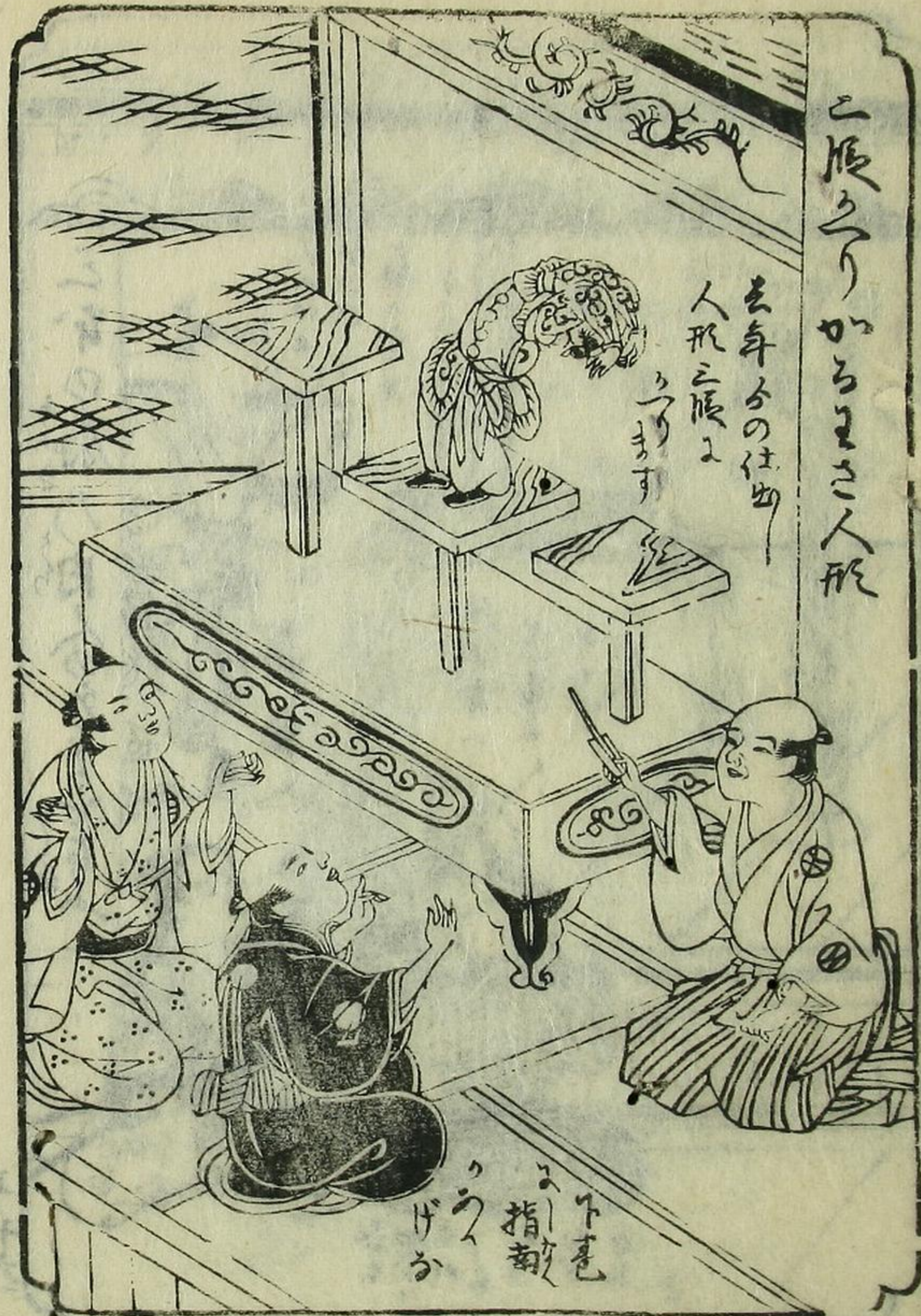
人形は海けてハ  
し祓人

あいやア

ぞうあうけ  
 と相う  
 なしぬ







己辰よりからまご人形

去年の仕物  
人形之辰  
うります

下巻  
指紋  
うら  
げか

早稲田大学図書館

011888005988